
魔法少女リリカルなのはS T S Arisia

ライリー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはSTS Arisia

【Nコード】

N1865I

【作者名】

ライリー

【あらすじ】

一人の少女が一冊の魔導書と出会い平凡な生活が続くが自分とそっくりな金髪の執務官と出会いいろいろな戦いに巻き込まれる。

第一話

崩壊が進みつつある庭園の名を借りた城、そして崩れ行く庭園の城の主

そしてそれを止めようとする一人の金髪の少女、そしてその庭園の城の主

は虹色に光る海にカプセルに入った少女とともに落ちた。

「あれここはどこ？」

「アリシア、アリシア」

一人の女性が小さな一人の女の子にそういった。

「お・母さん？」

「そうよ私よアリシア」

「え・でもわたしは」

そう彼女は一度死んだはずなのだ。

なのになぜ自分が生きているのかわからなかった。

「お母さん私なんで生きているの？」

「そっそれはっく」

「どうしたのおかあさん」

「大丈夫よアリシア」

（私の命も長くて三ヶ月その間にアリシアだけは普通の暮らしを）

「なに」

いきなり自分の真下から大きな音がしてプレシアは、驚いた

「なんなのお母さん」

「わからないわ」

地面のしたからは一冊の白い魔導書が現れた。

『やっとみつけましたわが主』

「なにこれは」

『私は白夜の魔導書の官制人格です』

『すみませんが、その子に資質があったのででてきました。』

「でもアリシアには魔法の素質はないはずよ」

『いえこの虚数空間にためてあった魔力がすべてその子の体に流れています』

『ですからこの白夜の魔導書のマスターになってくれませんか』

「でもアリシアには普通の暮らしを「たぶんですが大丈夫です」」

『マスターになっていたただけなので戦うわけではないです、いざというときのために自分で自分の身を守れますし』

「でも」

「あっあの」

「どうしたのアリシア」

「わたしでよければそのマスターっていうのになるよ」

「アッアリシア」

『ありがとうございますです今の官制人格の私はかなりの破損がありますので時空の狭間にいる元魔導書の官制人格に頼むので私は魔導書本体から官制人格プログラムをはずします』

「その前にここから出られなければなんなの解決にならないのだけど」

『それは大丈夫ですそれでは管理外世界に行きます』

「でも生活とかは」

『大丈夫ですお金や住む場所それと住民票などは私が用意しています』

「わかったわそれでもいいかしらアリシア」

「話が難しくくてあんまりわかんなかったけどいいよ」

『それでは私のかわりに官制人格として彼女にあとは任せましょう
それでは』

「ええさようならそしてありがとう」

『忘れていました私の最後の仕事をそれでは管理局管理外えと番号
は97日本の
海鳴市に設定しましたそれでは参ります』

虹色の魔方陣がでてアリシアとプレシアは管理外世界に旅立った。

第一話（後書き）

いや小説を書くのは初めてでしたから緊張しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1865i/>

魔法少女リリカルなのはS T S Arisia

2010年10月10日00時43分発行